

委員会視察報告書

委員会名	予算決算常任委員会運営会議・議会運営委員会
視察地	神奈川県秦野市
調査項目	総括質疑の在り方、活発な議員間討議について 議会局の設置、政策提言の可視化について 災害時等行動マニュアル・災害時等対策訓練の実施の詳細について
調査目的	議会改革の参考にするため
日時	令和6（2024）年6月27日 午後3時～4時30分
場所	秦野市役所（神奈川県秦野市桜町一丁目3番2号）
調査概要	<p>子細は視察配布資料による。以下ポイントを記す。</p> <p>1. 議会改革の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改選を契機に改革に取り組んでいる。 <p>H23：議会活性化特別委員会の設置、議会報告会の開始など H27：タブレット端末の配布、議会局の設置（H31）など R元：議会災害対策会議の設置、通年会期制の導入、常任委員会の政策提言など</p> <p>2. 通年会期制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4年1月から通年議会に移行。 ・目的は、政策立案機能の強化（柔軟な委員会活動が可能となり議会による政策立案や提言機能の強化につながる）と機動的な議会運営（コロナ禍や災害等の突発的な事案に対する相応性の向上）。 <p>3. 政策提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年1月の通年会期制の導入に伴い、常任委員会で選定したテーマについて執行部に対し政策提言を行う。 ・メリットは、議員個人の政策提言よりも、議会の総意として提案することで二元代表制の緊張関係を保ち、議会の存在意義が向上することと考えている。

4. 総括質疑

- ・総括質疑は決算審査（9月定例会議）にて行う。
- ・代表質問は当初予算（3月定例会議）にて行う。

5. 議員間討議

- ・常任委員会に付託された議案のうち、常任委員から申出のあった場合に実施する。
- ・申出の方法、討議時の留意点、流れ（議員間討議のタイミング）などを取り決めている。

6. 災害時等行動マニュアル及び訓練

- ・平成24年4月の熊本地震を念頭に議長提案により作成開始。平成29年4月から運用開始。
- ・構成は、目的、対象とする災害、役割、体制、具体的な対応、マニュアルの見直しから成っている。
- ・実績としては、令和元年台風19号の対応と令和2年の新型コロナウイルス感染症の対応がある。

視察の様子



全体写真



説明の様子

	
<p>質 疑 応 答</p>	<p>事前に提出した質問の回答は秦野市議会の配布資料による。 以下、当日の追加質問について記す。</p> <p>質問 決算のときだけ総括質疑をするのはなぜか。</p> <p>回答 予算に関しては代表質問で総括質疑ができるため。従来、予算については施政方針に関するものだったが、予算全般についても質問できることになった。</p> <p>質問 災害時行動マニュアルについて、議会会期中に災害が起きた場合はどう対応するのか。</p> <p>回答 議場での本会議や委員会の開催中に災害が起きた場合は、別の行動マニュアルで対応している。</p> <p>質問 主には対策会議を通じ情報提供を受けると思うが、市民の方から直接情報を受け取るようなことはあるのか。</p> <p>回答 市民が直接市の対策本部に情報提供する場合もある。</p> <p>質問 議会事務局から議会局に変わったことによる効果は何か。政策提言などのために職員の配置は変わったのか。</p> <p>回答 職員数の変化はない。政策担当を明確に配置した。事務局はあくまで議員のお手伝いだったが、議会局となり、一緒に政策づくり、政策提言を主体的に取り組むようになった。</p> <p>質問 議場の多目的利用について、議会だけでなく市民の利用もあるのか。</p> <p>回答 街づくりの映画鑑賞やワークショップ、市民によるコンサートを実施した。議員を窓口として議員の責任の下議運の了解で実施している。</p> <p>質問 議員による視察対応なども取組としているのか。</p>

	<p>【回答】 秦野市議会が議会改革をどう進めてきたかを議員の立場で伝えるため、会派持ち回りで実施している。</p>
<p>委員会所感</p>	<p>【重野委員長】 まず、視察の対応が各会派の持ち回りになっていることに衝撃を受けた。今回最初に説明をした議員は1期生であったが、議会改革の取組などを事前にしっかりと学んだ様子があり、全議員が議会のこれまでの取組を知ることは必要なことから、この会派持ち回りの対応は興味深いものであった。柏崎市議会としての災害時の対応については、災害対策支援本部の設置など実際の活動を繰り返しているが、秦野市議会が行っている災害発生時の議場でのシェイクアウト訓練や安否確認訓練、オンライン会議の実施などは、柏崎市議会としても取り入れていく必要があると感じた。また、秦野市議会では平成31年に議会局を設置しており、その設置の意義を議会・執行部共に理解して推進していくことも検討すべきだと思った。</p> <p>【上森委員長】 秦野市の議会改革（通年議会、政策提言、総括質疑、議員間討議、災害時等行動マニュアル作成）について説明をいただいた。災害時等行動マニュアルは軽井沢町を参考にされていた。申合せ事項が議員手帳に収まるサイズで作成されており、議員研修会も開催されている。また、災害時を想定した訓練を定期的に議会全体で行っている点においては、当市でも実施したいと感じた。</p> <p>【持田副委員長】 議場の多目的利用を平成29年に導入されていたことから今回の視察研修を本会議場で受けることができた。初めての経験であり刺激的であった。有志議員で漫画動画を作成していることには感心した。議会を市民により身近にする取組であると思う。議会基本条例の制定とともに着実に議会改革を進められている。総括質疑については、決算審査の段階で行うこととされ、当初予算では代表質問があることから行わないとされるが、学べるところと思う。議会局の設置については、横須賀市議会と同様であるが、「名は体を表す」の教えのとおりで、議会・議員の役割を明確にしていること。質問事項について、文書による回答をいただいたことに感謝申し上げる。議会としての姿勢の在り方を感じる。</p> <p>【佐藤正典委員】 秦野市は、柏崎市のおよそ2倍、約16万人の人口を有し、新</p>

宿・横浜から電車で1時間の好立地と、豊富な地下水源を持つ自然豊かなまちである。秦野市議会としては、平成21年3月以降、長期にわたり議会改革に取り組み、政策提言についても積極的に行ってきたことが、説明と資料から理解できた。平成31年4月には議会事務局から議会局に組織改正を行い、同時に議事政策課・政策調査担当を新設している。この点において、市議会としての政策形成と政策立案の機能強化を大きく図っていることは評価できる点であり、今後柏崎市議会としても更に研究・検討していくべき内容と考える。秦野市議会が作成した災害時等行動マニュアルは、大変分かりやすく、より実践的な内容であり、参考となった。また、災害時を想定した対策訓練を市議会として定期的に行っていることは高く評価できる点であり、柏崎市議会としても、今後更に研究を深めていく必要があると考える。

【近藤委員】

秦野市議会では、会派持ち回りによる視察対応として、1期生の議員が主たる説明役を担い、自作動画（漫画形式）により通年会期制を紹介するなど独自の取組を行っているのが印象的だった。政策提言発表の動画公開は、柏崎市議会でも試みるとよいと思う。また、秦野市災害時等行動マニュアルにおいては、議員の役割として「参集の求めがあるまでは、地域の一員として自治会や自主防災会等と連携し、救援活動等に協力する。」と明記している。柏崎市議会災害時等行動マニュアルにも「地域の一員として～」以下の部分を加えた方が分かりやすいと思う。災害時等対策訓練も、現行のマニュアルを実例に照らし合わせて振り返り、共通認識を持つ機会を設けた上で適宜実施してはどうか。

【田邊委員】

秦野市では議場にて説明をしていただいた。対応も会派の持ち回りということで、正副議長や議会運営委員会正副委員長の負担が軽減されているということだった。災害時等行動マニュアル作成については軽井沢町を参考とされている。議員手帳に災害時の申合せ事項などがコンパクトに収まるように作成されており、非常に参考になった。

【五位野委員】

議員間討議については、直近では平成29年3月での実施であり、議員間討議の位置付けや必要性について、他自治体でも積極的な取組にするための課題はあると感じる。当市議会でも実

施についての困難さを感じる。政策提言については、その意義の一つとして、議会の総意として提案することが、二元代表制の下互いの抑制と均衡を保つことで緊張感を持つことができるとの説明資料であった。改めてこの意義も踏まえ政策提言に取り組みたい。災害時等行動マニュアルについては、地震など大きな災害における対応を明確にすることが求められ、議員と市民の災害時における担当部署への要望や情報提供などの行動にも、一定のルールが必要と感じた。

【三宮委員】

今回の内容は当市でも取り組んでいることであり、当市との違いについて興味深く説明を聞くことができた。中でも、議員間討議については、留意点等のルールに基づき継続して実施されていることは学ぶべきと思う。また、改選を契機に議会改革に取り組んでいる点も興味深い。

【相澤委員】

秦野市議会では各会派持ち回りで視察対応をされていた。通年会期制や政策提言への取組など議会改革を積極的に進めてきていることから他自治体の視察受入れも増えている。その対応も理由の一つだが、市議会が議会改革に取り組んできたことを議員全員がしっかりと捉え自覚を持つための策でもあった。加えて、議会局に組織変更した経緯を伺ったが、人数は変わらずとも役割を明確（政策参謀を置く等）にし、議会の世話役だけでなく活動に一步踏み込める体制にするなど、議会オールでのやる気を感じた。

【佐藤和典委員】

平成21年3月以降、議会基本条例制定に向けて断続的に議会改革に取り組んでいる。令和に入り通年会期制の導入と同時に政策提言についても積極的に取り組んでいる。議員個人としての政策提案よりも議会の総意として提案することが、二元代表制の下互いの抑制と均衡を保つことで緊張感を持つことができる。柏崎市議会も積極的に取り組んでいるところであり、具体的な提言内容を比較しながらスパイラルアップを図っていきたい。また、平成31年には、議会局へと組織改正を行い、議事政策課とその下に政策調査担当を新設している。柏崎市議会としても役割分担の更なる明確化について検討していくべきと考える。災害時等行動マニュアルについては、大きな自然災害における対応を明確にしている。災害時における担当部署への要望や情報提供などの諸課題（混乱）はどこの自治体も同じである

と感じた。

【阿部委員】

秦野市においては、当市同様に通年議会の開催や各常任委員会からの政策提言に取り組んでいたため、総括質疑や議員間討議についての考え方に注視して学んだ。各市議会において、やり方や考えは異なるものの、与えられた機会だから行わなければならないとの考えではなく、結果を求めていくことの重要性を再認識した。今後も調査研究を進め、当市の発展に結び付けたい。

【春川委員】

市民向けに議員が作成した動画のYouTubeによる配信には感心した。総括質疑においては、会派のみ（無会派はできない）総括質疑ができ、7人以上の会派は2人代表質問ができる体制となっているが、これは当市も対応できている。議会局の設置については、議員と一緒に踏み込んで対応できるので、議会事務局というより効果的であると議会局職員から説明を受けた。横須賀市同様、当市も検討に値する。災害時等行動マニュアルについては、タブレット端末をテレビチューナーに接続しテレビからも情報を収集していたのが印象的である。

【真貝委員】

市政に関する重要な課題等について、議員間での討議を活発に行うことにより論点を明確にし、更に議論を深めることにより意見を集約し政策提案を行うなど、市政に民意を反映させることを目的として議員間での討議を充実させることが議員間討議の目的であることを、改めて再認識する必要がある。政策提言については、柏崎市議会と同じように常任委員会でテーマを決めて行っている。